

新型コロナ感染爆発

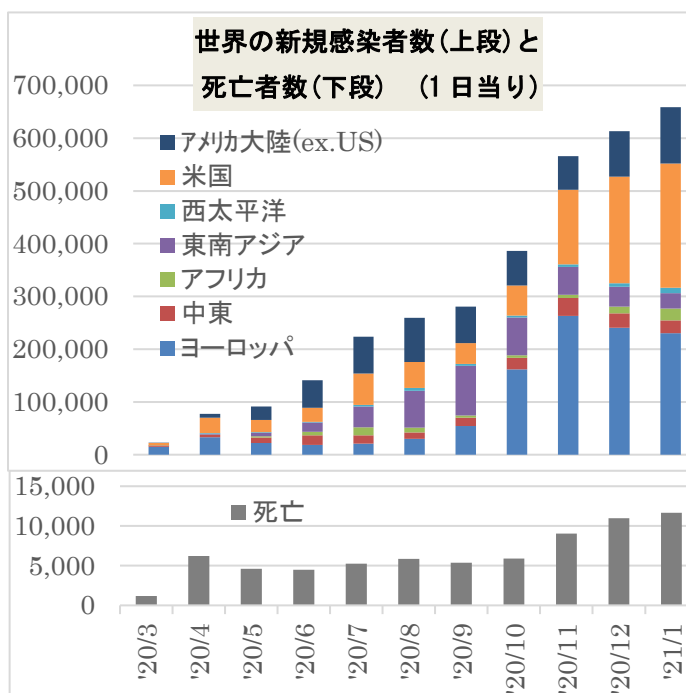
年明け直ぐに感染爆発の様相を見せている新型コロナ。経済優先だった菅政権も方針を転換、一都三県などで緊急事態宣言を発出しました。今回のCBCANEWSでは、三度となるコロナ感染状況の今をお伝えします。

世界の感染状況

まず世界の感染状況を見てみましょう。

全世界でみると、コロナ感染拡大の勢いは全く衰えていません。特に北半球が冬場を迎えた11月以降、欧米での感染拡大が加速し、この1月は1日当たり約65万人の新規感染者が確認されています。また死者数は、感染拡大が加速した昨年11月以降に急増し、この1月は1日当たり1万人強となっています。テレビ等の報道では昨年春のイタリアやニューヨークの感染拡大が印象に残っているかもしれませんが、実際の感染状況は紛れもなく現在が最悪です。

イギリスやドイツではロックダウンによる感染拡大の阻止が図られていますが、今のところ大きな改善には結びついていません。欧米での感染拡大の理由は、①感染しやすい冬場の気候であること、②感染力が強い変異種が拡散していること、などが挙げられています。

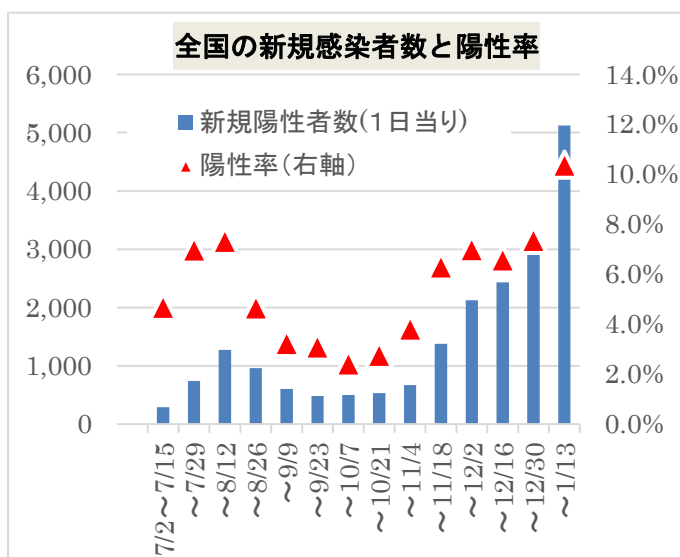


(出所)WHO 1/14 現在

日本全国の感染状況

次に日本の感染状況を見てみましょう。

全国の感染者数は11月以降増加傾向を強め、年明けには爆発的な増加を見せています。冬の季節要因、GoToキャンペーンでの人出増、年末要因など、複数が絡み合っただけの感染拡大と考えられていますが、あまりの急増に専門家も驚きの声を挙げています。気になるのは陽性率の上昇です。PCR検査が感染拡大に追いつかず、市中感染が拡大している証です。従来の濃厚接触者を追跡して感染者を洗い出す方法が限界に近づいており、既に神奈川県では追跡調査を一部断念する方針です。



(出所)厚生労働省 1/13 現在

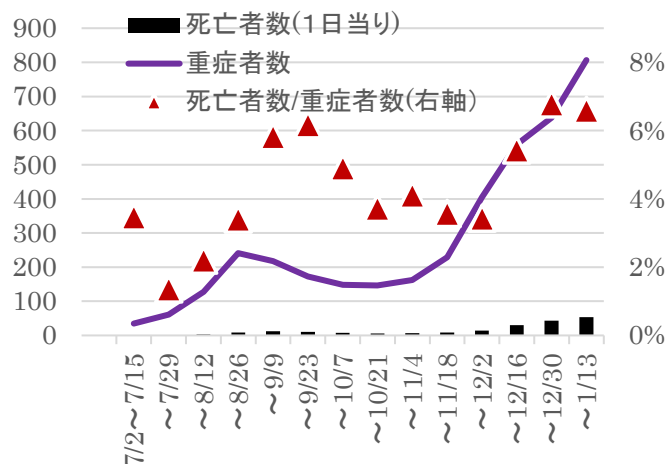
感染者数の増加に伴い、重症者数と死亡者数も増加しています。特に重症者の増加が医療体制の逼迫を引き起こすとして、最も懸念されています。重症者が増加し医療が逼迫すると、死亡に至る割合が高まる傾向があります。12月以降こうした傾向が強まっており、医療崩壊が懸念される状況と言えます。政府や分科会は、「医療を守るために行動自粛を」とのメッセージを盛んに出していますが、今感染したら命を落とすリスクが高いことをもっと訴えてもよいのではと思います。

さて、感染拡大時にはやたらと東京が悪者扱いされますが、本当にそうでしょうか。地域別の新規感染者割合をみると、確かに以前は東京の割合が突出しており、夏場の感染拡大時は東京から周辺に拡大し、年末年始の東京の感染拡大は大きなものでした。しかし、11月から12月中旬では東京の感染は比較的落ち着いており、この秋の感染拡大が東京から広がっていったとは言い難いです。

また、同様に悪者扱いされる若者についても同じことが言えます。東京都の新規感染者の年代別割合をみると、確かに活動量の豊富な若者の割合は相対的に高く、以前はその割合が抜きん出ていましたが、最近以前より低位にあり、直近の感染拡大が若者のせいとは言い難いです。

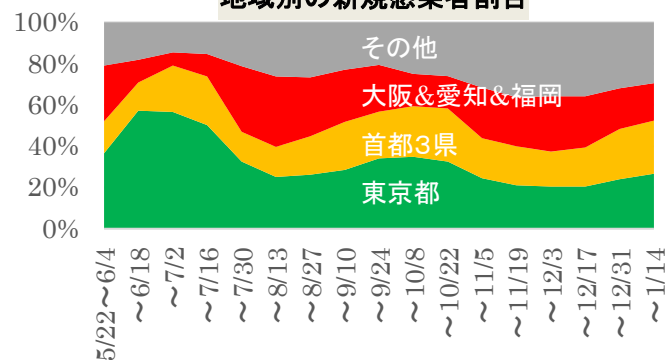
つまり、コロナ感染は既に局地的なものではなく、全方位的に警戒すべき状況にあるのです。偏った思い込みなく、感染防止に努めたいと思います。

全国の重症者数と死亡者数



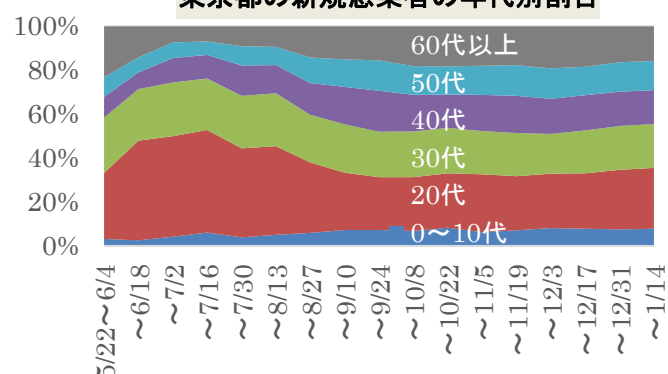
(出所)厚生労働省 1/13 現在

地域別の新規感染者割合



(出所)NHK 集計 1/14 現在

東京都の新規感染者の年代別割合



(出所)東京都 1/14 現在

一般社団法人全国経営診断士協会

〒112-0004

東京都文京区後楽 2-2-17 NBD 三義ビル

TEL : 03-3812-8211 FAX : 03-3812-8213

mail@cbca.jp

http://www.cbca.jp

お問い合わせ先